

# 男女共同参画



小峰公園

特集

「家族」

その2

親子の絆

# 「家族」

その2

## 親子の絆

### 子ども時代

**田中** 戦後の貧しい時代です。父親が病弱だったため、母親は大変でした。それを見ていたので、小学四年の時には、女も職業を持たなくては、と思ったものです。昔は年中行事が多く、それが何より楽しみでした。大人はみんな忙しくて、子どもは遊びが大好きで、暗くなるまで遊んでいました。

### 小山田

私は核家族のはしりです。東京都内から日の出町に引っ越してきました。その頃の日の出は自然がいっぱいで、今の時期だと、山間の田んぼに氷が張っていました。そこで、父親手作りのスケート靴で滑り、よく怪我をしていました。小学校時代は、野山を遊び回って、体力的な基礎を作ったと思います。

戦争直後の食糧難の時代で、親は子どもに食べさせるため、夢中で働いていました。その様子を見ていて、親があんなに一生懸命働いているのだから悪いことはできない、と思っていました。親が言った言葉で覚えているのは、『誰もいない時でも悪いことをしたら、お天道様が見ている、人様のことをまず大事に思いな

前号に引き続きテーマは「家族」、今回は親子を取り上げます。昔と比べ、今は親子の絆が弱くなったと言われています。私たちは、どうしたら親子の絆を取り戻すことができるのでしょうか。市内で子育て世代と関わっていらっしゃる方々に集まっていたいただきました。

### 座談会

## 「親子の絆を

## 深めるために」

#### 【参加者】

- 小山田 勢津子 さん（流域“学び”の会代表）
- 田中 雅代 さん（元教師）
- 塚原 ひとみ さん（助産師）
- 肥後 満雄 さん（音楽家）
- 編集委員 6人



（左から）塚原さん、肥後さん、小山田さん、田中さん

さい、約束を守りなさい』の三つです。

### 肥後

皆さん、子ども時代はほったらかしにされていた、とのお話ですが、ほくもそうですね。

児童疎開で親と離れていた時の方が、思い出が多い気がします。最近の親は子どもに干渉しすぎるのかな、と感じているこの頃です。

### 塚原

親は百姓して忙しくて、ゆっくりできるときは、ちゃんと子どもをかまってくれる、自分をちゃんと見てくれているという安心感がありました。突き放した

ほったらかしではなく、気持ちの届いているほったらかしです。祭事や道路掃除などの地域活動に子どもでも出ていましたから、間違ったことをしたら、近所の怖いおばさん、おじさんから注意を頂いた。厳しさ反面、地域に育ててもらい、かわいがってもらいました。

### 委員

地域力ってすごいですよね。やっぱり強いですよ。今、どちらかというと、地域活動をしたくない親が多いんですよ。一人で悩んで鬱になり、虐待に走っ

### 塚原

てしまう人がいる。困っているのに、自分から助けてと言えない、頼る力がないのです。助けてくれる人はたくさんいるのに。もったいないと思います。

## 子育て時代

### 小山

自然の中でたくさん学んだ自分の子ども時代。それに比べると今、人間は生き物だということ



を忘れてしまっています。自分があるの息子を育てれば良かったな、との反省があるのですが。高度成長期で、勉強して良い大学、良い就職へ、という時代に子どもが生まれてきたでしょう。世の中の環境に、親も抵抗できない面もあつた。本当は子どものためには、料理を教えたり、包丁の使い方を教

えたりすることの方が、生きる力となるのだけれど。数値で計れる成績などが評価されてしまったからね。また、ちょうど私たちの育児時期には、アメリカの合理的な考え方が入っていたようで、『三時間おきに授乳をしないといけません。泣いても放っておかないと自立心が育ちません』と言われました。その後、『泣いたら、好きな

だけだっこしてあげてください』に変わってききましたよね。泣いたら、「ああ、どうしたの」って抱きしめる、自然な気持ちの方が大事なんじゃないかな、と今は思っています。でも、その時代の背景や風潮のなかで、人は惑わされてしまうもの。祖父母世代の人の育児の知恵が、伝わっていくようにしたいですね。

### 肥後

ぼくも、子どもは突き放して育てた方が良い、と聞いたことがあるけど、抱きしめてあげて間違いないですよ。子育てというのは、一人の偉い先生が言うのと、変わって

いってしまうことがある。ぼくも抱きしめる方に賛成です。

### 田中

そうですね。それは甘やかすこと、すると弱い子に育つ、と言われましたね。

### 肥後

少し大きくなって学校へ行く部屋を作り、それぞれの部屋で勉強するように。一階の茶の間は、みんなが集まって食べたり、お話しをする場ですよ。そこへ子どもが二階から降りてくると、「早く二階へ上がりなさい。勉強してたんじゃなしの」と追いつ

てきて話すチャンスなのに。

### 小山

『子ども部屋を与えないと自立心が育たない』と言われた時期があつて、子ども部屋を作りました。最近では受験対策で、親の会話が大切と言われ出して、リビングに子ども部屋を作る、という傾向もあるとか……。家族団らの意味が、分からなくなってきたり、かもしれません。

## 子どもの成長に必要なこと

### 小山

親も心配しながら子どもにナイフを使わせてみるとか、一緒に何かをやってみるのは親子の基本ですよ。子どもは親のまねをして、やりたがる時期がありますよね。その時にやらせてあげられるかどうか。親が忙しいものだから「危ないからあっちへ行つてなさい」って。

### 塚原

親は自分でやってしまう方が早いから、待てなくて、子が育たないですよ。昔の子どもは、一人の担い手として働かされました。ご飯を作らされたり、子をおんぶしたり、半強制的にね。子どもに任せて、大人は働きに出かけた。親が働いて帰ってきた時に、ご

飯ができていないと困ってしまいます。子どもも大人を見ているから、やるんですよ。小さいながらもやったので、親も褒めてくれるんですね。それが育つことになるのではないのでしょうか。

**小山** 薪とお釜でご飯を炊いていましたからね。あれが基本ですよ。

**肥後** ぼくも小学校の低学年頃やちよろ中ばっぱ』ってね。うまくご飯が炊けた時は、みんなが喜んでくれましたからね。

**塚原** 薪でお風呂も炊けますから。今は便利になりすぎていて、子どもの手を借りなくてもすみますから。

**肥後** うちでは、リンゴの皮むきは子どもにやってもらいました。リンゴっていうと、彼女



にお任せっていう時代がありました。何か、おもしろがって

やってくれる、遊びという感覚が大事ですよ。何かをさせる、勉強のためというのではなくて。

**小山** 小学校で勉強する時になって、「うちの子は意欲がない」と親は言います。けれど、本当は親が意欲をそいでいるわけで、危ない事でもやらせてあげれば、意欲に繋がるように思います。

### 家族の絆を深めるために

**肥後** ずっと思っていることはね、家族という単位がしっかりしていくには、家族で遊ぶものを、もともととやったらいいのでは。何人かで遊ぶ遊びがあるでしょ。トランプやかるたとか。麻雀なんか、家族で遊ぶにはすごくいいんです。ぼくも子どもの時によく遊んだものです。

**小山** 本当にそう思います。ゲームだと一人でやるけど、みんなで作るものは相手の気持ちを考えるでしょ。感情のやりとりがありますよね。

**肥後** 負けることを経験するんですよ。負けるだけで、「このゲームは嫌だ」と言う子がいるそうです。

**小山** 忍耐強くなければできないですよ。途中でやめたいと思っても、みんながやっているから、最後まで我慢してつきあわなくては行けないし。一人でゲームをやっていたら、好きな時にやっつて、好きな時にやめればいいのだから。

**田中** 今は友だちが集まっても、一人一人ゲームしています。言い合い、けんかもしないし、気が合う仲間と一緒にいることが安心なのでしようね。

**肥後** うちの中も、一つの社会だと思えます。一人としていないと困る存在。どんなに小さい子ども、役に立っています。家族のためにやる仕事をさせて、褒めることが大事。

**小山** 自分も役に立っているという気持ちをとくさん持たせる、という事です。昔は大家族なので、家族のモデルがあったのでしよう。今はモデルがないのと、ネットなどにたくさんさんの情報がありすぎて、わからないのと両方の混乱がある。家ごとに家族のあり方を積極的に作っていかないと、親子の絆ができないのかなと思います。例えば、週末にはみんなで料理を作って、一緒に食育とか、家族

で月に一回は双六をしようとか。何か工夫とか演出が必要なのかもしれません。

### 地域力をつけるには



**塚原** 今、ママたちは忙しいのに、おばさんやおじさんたちは暇で、生き甲斐を求めています。この二つを結びつけば、うまくいくと思うのです。

私以降の人たちは、マニュアル世代なんです。おっぱいだ何リットル出ているのか分からないから、ミルクの方が安心だわ、と言う人がいるんですよ。それでは、心とか精神力とか、我慢する力とかは育たないです。ママたちは核家族で育って、初めてのことなので見当もつかない、子どものおむつの換え方も分からない人がいます。お母さんの存在の人が地域にたくさんいて、どうやったらうまく子育てできるのか、ママたちが一番楽な方法を選べるように支えてあげる。安心して子育てできると思えば、安心して結婚でき、安心して妊娠ができる。地域力が増して、『あきる

野は子育てに力を入れてるよ、ここで育てればいいよ』ということになればいいですね。水や空気もおいしくて、環境もいいですから。

### 委員

知らない人には頼ることができないもの。私たち子育て応援団が、率先して声をかけていかなければいけないですね。

## 若い皆さんへ

### 田中

三人目のお子さんの時に、鬱病になった、という人の話を聞きました。一人目、二人目の時は大丈夫だったのに、急に育児がいやになったと。けれど、こういう気持ちを誰かに伝える機会がなかった、というのです。悩みを話し、他の方の体験を聞いて、ほっとなされたようで、帰る頃には良いお顔になっていました。

### 委員

話をするだけで楽になりますものね。

### 小山田

育児中の方が、おむつやミルクを持って安心して出かけ、一休みできる場所が街のあちこちにあると良いな、と思っています。祖父母世代からいろんな世代が集ま

れるサロンのような場所。今、引きこもり問題があるでしょ。そういう人たちの足慣らしの場所としてもね。親が心のゆとりを持てるようなサポートをしてあげたいな、と思います。

### 田中

また、結婚は良いものだという考えを、若い人にもっとアピールする必要があると思います。今、男性も女性も独身が多いですよね。夫婦というものは負担が多くて、あんな面倒くさいことをしない方が自由で生きられる、と考えるそうです。でも、結婚というものは、自分の育った家庭とまったく違う人と結び合えることになり、二つの文化を得ることになりますよ。知らない世界を学び取り、新しい人格を知って、社会に繋がることになります。

### 委員

マスコミが結婚のマイナス部分を広めていますよね。

### 田中

母親の役目って大事なんですよ。『お母さんがいたから、わたしがいる』と子どもが受け取れる家族の暖かさをみんな育てていくことが、ごく普通のことでとても

大切なのではないのでしょうか。それが薄れてきているのではないかな、と思いますね。

### 小山田

家族以前の未婚の問題。なぜ30〜40代は結婚しないのか、と考えていたのです。受験勉強の中で、「家事はお母さんが引き受けるから、あなたは勉強だけをしなさい」と言われた。人は育てられながら、将来の自分が親になった時の育て方を学んでいくといわれます。動物園の猿は餌を十分与えられて、野生の猿のように自分で餌を取らなくてすむと、子どもが生まれても子育てをしないそうです。家事も兄弟の面倒もまったくしないで大人になると、結婚といった時に、家事や育児のハードルが高くて踏み込めない、という話を聞きます。

### 田中

だから男女共同参画で、男の人も家庭の中に入ってもらわなくては、と講演会等が開かれていますが、その講演会等が開かれていない。その理解が進めば、仕事とは違う自分の世界が広がっていく、感性が男の中に目覚めていくと。

### 小山田

イクメンが始まったのは良いことですよ。男の人も子どもに関心を持つことで、会社で部下や

仲間を見る目が変わり、広い視野で見ることができるようになった。これはいいことです。女の人が働きながら子育てをしていることの大変さを、実感したそうです。

### 委員

子どもが家に帰ってきた時に、家がいいなと思えるような、暖かい家が多くなると良いですよ。

### 塚原

親が落ち着くと、子どもも落ち着きます。家族が落ち着くと、社会も落ち着きます。

### 小山田

若い人も情報を得る力や、感受性があるので、上の世代と手を繋いでいけたら良いと思いますね。

結局、ありのまま任せていくのは、親子の絆も家族もできない、工夫が必要ということでしょうか。

### 肥後

考えすぎないこと、時流に流されないことです。

ありがとうございました。



今先生にインタビュー



# 母親は家族の要

かなめ

障がい児も預かる、暖かい保育園を開園して32年。ただひたむきに子どもたちのための保育を続けて、今なお地域のお母さんに徹する、あすなる保育園園長今キヨ子さんを訪ね、お話を伺いました。

## 子ども時代

鹿児島で、男四人・女四人、八人兄弟の末っ子として生まれました。両親が農業をしている周りを、うちよろしているような子で、物心ついたら働いていました。兄弟全員に仕事があった、学校から帰るとそれぞれの仕事を必死にやっていました。私は、小学校一年生まで一日一回、母のおっぱいをさわるような甘えっ子でした。

活発な子どもでしたが、六年生まで吃音(どもり)でした。戦地から障がいを持って帰ってきた兄たちの悪口を言われ、言い返せなくて悔しがって

る私に母は、「みんなのために戦争に行つて傷を負ってしまったと教えてやりなさい」と言いました。「吃音は必ず直るから」とも言い、お前の声はいい声だからと毎日音読をさせ、相槌を打つてくれました。おかげですっかり直りました。

## 両親について

父はよく、囲炉裏で昔話をしてくれました。今でもその様子が鮮明に浮かびます。

母は差別をしない、筋を通す人です。『もらう身になるな、やる身になれば人の役に立つ人間になれ』と言われま

した。たくさん魚や野菜が取れると、いつ何があるか分からないからと干物などにして保存していました。そして、人に分けていました。普段の生活の中に、人の役に立つ事がたくさんあると言われました。

聞くより見る、見るよりやってみるということ、いろんなことを体験させてくれました。男も女も関係なく、自分の食いぶちは自分で稼げと言われ、私は育ちました。

## 子育て中に気を使ったこと

結婚した時は三鷹に住んでいました。自分の育った環境に近いところで子育てしたかったので、山が見え、近くに川があるこの地に住むことに決めました。子どもたちには、自分が体験してきた魚のさばき方など教え、料理ができるようにしました。

自分が働いているから何かを買ってやる、なんてことは、一度もありませんでした。そして何事も、お父さんのお陰、お父さんが働いてくれるからと常々話して育てました。

## パートナーについて

夫は共働きには賛成ではなかったけれど、自分が女性として、パートナーとしてやるべきことはやるから働きた

い、とお願いしました。私は家庭(夫)に恵まれました。家庭が第一です。この世の中に家庭より大事なものが他にありませんか？

## 保育の道に入ったきっかけ

やっとの思いで生まれた子どもの成長が、不思議でかわいくて、毎日何て楽しいんだろうと思いました。

この子どもを思う親の気持ちでできる仕事ということで、保育の道に入りました。生活に困っているわけではなく、自分の食いぶちは自分で稼ぎたい、人のために何かしたいと思っていました。

## 『あすなる子どもの家』をはじめたのは

子どもたちが成長していくのには、昔ながらの伝統行事が生活の中で自然に営まれること、元気な子ども障がいのある子ども一緒に育ち合うこと、地域の人に見守られて育つことが大切です。それがどんどん失われていくことに不安を感じ、そのことを夫に話したら「自分でやるしかないよ」と言われました。この一言をきっかけに、自宅で保育ママを始めました。それが『あすなる子どもの家』です。どんな子どもが来てもいい所(家)でありたい、一

日一日の生活を大切にしたい、そんな気持ちで子どもたちを受け入れました。

## 母親の役目について

すべてを見守り、すべてを許して、すべてを受け入れる、凜として生きて、世の中を変えるんだと思ってほしいですね。母親は扇の要です。つまり家族の要です。

## 今日一日を大切に

自分が昔、父や母から学んだことを今、職員や保護者に伝えることができます。共に行うことができます。それが人生、二度生きることかなと思います。

自分の生涯に、こんな人生があるとは思いませんでした。運がいいのでしようか、多くの人と関わりながら、まだまだやれることがありそうです。今日一日を、とても大切に思っています。

イクメンや男性の育児休暇などが、話題になっている。現在にはないご苦労も乗り越えられたエネルギーに圧倒されました。



# 大家族

## っていいね!

- 一に 地域に惚れろ
- 二に 仕事に惚れろ
- 三に 女房に惚れろ

三百年続く材木業四代目の小峰勇さんは、祖父の匠作さんから厳しい薫陶を受け、商売を懸命に盛り上げて、約20年前に息子さんに仕事をバトンタッチ。義母さよさんの協力で妻の経子さんも21歳のときから編み物教師として働き続けてきました。

『一に地域に惚れろ、二に仕事に惚れろ、三に女房に惚れろ』は勇さんの名せりふ。やおら胸のポケットから取り出したのは、なんと経子さんの19歳のときの写真です。勇さんに「大家族で暮らす秘訣は？」と聞くと、「毎日一回はケンカすること」でした。

この答えには、たくさんヒントが詰まっています。家族の中で「お互い、言いたいことはきちんと」「自分の意見を持つ」「コミュニケーションを十分とる」などです。

大家族の小峰家を支えてきたのは、家族への思いやりであることを実感しました。



小峰家は勇さん夫婦、息子夫婦、孫3人の3世代、7人家族

# ご存知ですか、モラル・ハラスメント(ことばの暴力)

～あなたはパートナーの顔色をうかがって生活していませんか～

平成22年12月12日(日)、あきる野ルピア3階ルピアホールで、モラル・ハラスメントをテーマにしたライフ・フォーラムが開催され、110名が参加しました。

第一部は、モラル・ハラスメント被害者同盟の代表である、熊谷早智子さんによる基調講演。自己紹介もそこそこにテレビ放送された映像が始まり、具体的なモラル・ハラスメントの現実を知ること。主人公が受ける数々の人格否定や嫌がらせは、見ているだけでゾッとする異様なものです。味方だったはずの息子たちが、大きくなって夫と同じような態度を取り始める様子には、虐待と同じ“負の連鎖”を感じました。

モラル・ハラスメント(言葉の暴力)で悩んでいる方、おかしいなと感じている方は、そのままにしないで、熊谷さんの著書やホームページをぜひ一度ご覧になってみてください。心のつかえが取れて楽になりますよ。

第二部は、地元の高校生、小島康平さんによる津軽三味線のミニコンサートが行われました。演奏はもちろんのこと、トークも素敵で、会場を沸かせてくれました。



## 編集後記

今、日本中に広がる無縁社会。孤独を感じている人が、10代から50代まで増えています。それぞれの家庭には、それぞれの良さがあります。かけがえのない家族です。こんな時代でも暖かい気持ちを通わせられる絆を持ち続けたいと思います。

情報誌編集委員 …… 石川光代・大本浩子・齋藤映子・

代田富貴子・山崎敦子・山崎経子

「エフ・ウェイブ」は公募の市民編集委員により編集しています。

## 映画で見る家族と子育て

◆「しあわせの隠れ場所」(09年アメリカ)  
プロのアメフト選手マイケル・オアーの波乱万丈の半生を描いた感動の実話。家族の愛を知らずに育った孤独な少年が、偶然出会った女性とその家族の温かさで人と人の絆を実感し、才能を開花させていく。

◆「ウォルター少年と夏の休日」(03年アメリカ)  
かつては壮大な冒険を繰り広げていたという2人の老人と、親の愛に飢えた14歳の少年の心温まるファンタジックな物語。こんなおじいちゃんと孫っていいなあと思える作品。

◆「リトル・ミス・サンシャイン」(06年アメリカ)  
ハラハラな家族が、おんぼろのミニバスで砂漠を旅をして、度重なるトラブルを乗り越えながら、絆を再生させていくお話。家族ドラマとロードムービーをミックスさせた、ハートウォーミングで楽しい映画。

◆「私の中のあなた」(09年アメリカ)  
白血病の姉のドナーとなるべく、遺伝子操作によって生まれた妹が、姉への臓器提供を拒んで両親を提訴する姿を通し、家族のありかたや命の尊厳を問いつける。

◆「リリイ、はちみつ色の秘密」(08年アメリカ)  
母の死で心に深い傷を負った14歳の少女リリイが、蜂養場を営むポートライト家と出会い、「愛」を知って癒されていく。親子愛、家族愛、人間愛が描かれた感動物語。